

平成30年度 嬉野市文化講演会

6月23日(土) 13:30~15:00

於:嬉野市公会堂

講師 佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課長

浦川和也 氏

演題 「鍋島直正と幕末佐賀藩」 ~ 日本の産業革命は佐賀から始まった ~



「何故、日本の産業革命が佐賀から始まった」と言えるのかについて、その訳を豊富な資料で分かりやすく解き明かしていただきました。

浦川講師のお話から歴史のロマンに惹きこまれました。幕末佐賀藩の明治維新のパイオニアとしての功績に、改めて感服しました。一連の歴史の流れの中に佐賀の先人の気概と活躍には、佐賀県人としての誇りも感じられました。

1830年に鍋島直正が10代佐賀藩主となったことが、「佐賀の近代化の起点」と浦川講師は話されました。幕末、近代化を推し進めた藩といえば、薩摩藩などを連想する人が多いと思いますが、佐賀藩こそが「近代化のトップ」と言われました。薩摩藩主の島津斉彬は「西洋人も人なり、佐賀人も人なり、薩摩人も同じく人なり、退屈せず、倍々(ますます)研究すべし」を激励したというお話は意外でした。

1853年の黒船来航の時に、唯一佐賀藩だけが鉄製大砲製造が間に合い、日本初の実用蒸気船製造も実現したとのことです。これは、鍋島直正自身の国際感覚と進取の気性、マネジメント力とリーダーシップによるものだそうです。

また、混迷を深めつつあるこの時期に、佐賀藩は1867年開幕のパリ万博への参加を決めました。海外の知識や技術を得るチャンスと捉え、佐野常民らを派遣して、本格的な海外進出の先駆けとしました。軍事にとどまらず、政治や経済、薬類、工業学校の法則書など、幅広い分野に関心を寄せていました。

浦川講師からユーモアも織り交ぜ、写真等の資料も多く示していただきました。ご講演後のアンケートでも「分かりやすいお話だった。」「歴史の面白さを再認識した。」「佐賀が先進県だったことを初めて知った。」などの記述が多かったようです。